

# 平成27年度 神河町社会福祉協議会 事業報告書

## 1. 法人運営活動

役員、評議員の出席率も良く、円滑な運営活動ができています。新たに取り組む活動に向けての研修も実施できました。

介護サービス利用者の家族から1件苦情を受けましたが、それを機にサービス内容を見つめ直す良い機会となりました。

### (1) 理事会・評議員会・監事監査

※○、□数字は議案番号を示す

開催日	会議の名称	協議内容	出席者
平成27年 5月15日	決算監査	*平成26年度神河町社協の各事業ならびに会計監査	監事 2名 会長
5月21日	○第60回理事会	①欠員による新評議員就任の同意 ②平成26年度神河町社協第3次補正予算の専決処分の承認 ③平成26年度神河町社協事業報告 ④平成26年度神河町社協会計決算	理事 10名 監事 1名
5月29日	□第34回評議員会	①平成26年度神河町社協第3次補正予算の専決処分の承認 ②平成26年度神河町社協事業報告 ③平成26年度神河町社協会計決算	評議員 20名 会長 監事 1名
7月13日	○第61回理事会	⑤欠員による新評議員就任の同意 ⑥善意銀行地域づくり助成事業申込審査	理事 9名 監事 1名
9月17日	○第62回理事会	*社協経理規程の一部条文の追加 *介護保険改正に伴う“新しい総合事業” *小地域見守り活動の取り組み *姫路十字会から車両購入助成金の決定	理事 9名 監事 1名
11月6日	中間監事監査	*平成27年度上半期の社協の各事業ならびに会計監査	監事 2名 会長
11月16日	○第63回理事会	⑦平成27年度神河町社協第1次補正予算 *中間監事監査の結果報告	理事 8名 監事 1名
11月25日	□第35回評議員会	④平成27年度神河町社協第1次補正予算 *中間監事監査の結果報告	評議員 22名 会長、副会長 監事 1名

平成 28 年 1 月 28 日	○第 64 回理事会	*介護保険“新しい総合事業”における生活 支援コーディネーターの設置に向けて *定年退職者等の再雇用について	理事 8 名 監事 1 名
3 月 14 日	○第 65 回理事会	⑧善意銀行地域づくり助成申込審査(第 13 回) ⑨事務職員の新採用について ⑩平成 27 年度神河町社協第 2 次補正予算 ⑪平成 28 年度神河町社協事業計画 ⑫平成 28 年度神河町社協会計予算	理事 8 名 監事 2 名
3 月 28 日	□第 36 回評議員会	⑤平成 27 年度神河町社協第 2 次補正予算 ⑥平成 28 年度神河町社協事業計画 ⑦平成 28 年度神河町社協会計予算	評議員 22 名 会長、副会長

## (2) 研修会

災害ボランティアセンターの運営スタッフを確保するための研修と、新たに取り組むグリーフケアについての理解を深めるための研修をそれぞれおこないました。

研修会名	開催日	研 修 内 容	出 席 者
災害ボランティア センター運営ス タッフ養成研修会	1 月 24 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役場災害担当より、神河町における災害の想定の説明</li> <li>・県社協地域福祉部より、災害ボランティアセンターの役割の説明</li> <li>・社協災害対応マニュアル及び災害ボランティアセンター運営マニュアルの説明</li> </ul>	一般 19 名 役員 8 名 職員 10 名
グリーフケア研修	1 月 17 日 2 月 21 日	グリーフケアの理解と事業所の役割 講師:藤原 昭 姫路マリア病院部長	総数 66 名

※グリーフケア…死別を経験し喪失感からくる不安定な心理状態の人へさりげなく寄り添い、援助すること

## (3) 住民や利用者等から意見、苦情

申出者	訴え内容	原因と改善策
要介護者の 家族	台風が接近する理由で、訪問入浴の予定時間の一方的な変更を求められた。 風雨が強まるかもわからない段階から変更されることに不満を抱く。	他の利用者の訪問調整のこともあり、訪問予定の時間変更を前日に連絡したが、その際に利用者側への配慮に欠けていた。相談しながら決定できる雰囲気づくりに心掛ける。

## 2. 自主財源の確保（募金・預託関係）

自主財源である募金や会費については、住民の方々の理解と集落取りまとめ役である区長さんの尽力により現状維持を保っています。しかし、善意銀行預託については下落傾向が続いている状態です。

### （１）「善意の募金運動」

6 月に各世帯へ、ポケットティッシュと使途説明書をつけて募金協力を呼びかけ、集落内の取りまとめを区長さんに依頼しています。募金の目安額は 300 円。

年 度	募金額	前年度比較
25 年度	1,023,420 円	－ 2.6%
26 年度	1,038,288 円	＋ 1.5%
27 年度	1,100,571 円	＋ 6.0%

※27 年度は中播磨県民センターから 50,000 円の募金を含む

### （２）社協会費

- ① 一般会費 8 月に区長さんを通じ、一世帯当たり 1,200 円の一般会費について納入協力を求めました。

年 度	納入額	納入戸数	加入率
25 年度	4,088,700 円	3,407 戸	82.5%
26 年度	4,027,600 円	3,357 戸	80.9%
27 年度	4,060,800 円	3,384 戸	81.7%

- ② 特別会費 6 月に町内 110 カ所の事業所に対して一口 1,000 円×口数の特別会費の納入協力を求めました。

年 度	納入額	内訳
25 年度	566,000 円	事業所 99 件 個人 0 件
26 年度	558,000 円	事業所 100 件 個人 0 件
27 年度	555,000 円	事業所 98 件 個人 0 件

### （３）善意銀行預託

『社会のために少しでも役に立つことをしたい』という善意の気持ちを金銭でお預かりし、地域福祉の推進に、またひろく福祉のまちづくりのために活用します。

年 度	預託総額 (円)	件数
25 年度	5,234,110 円	95 件
26 年度	3,658,555 円	103 件
27 年度	4,471,686 円	88 件

※25 年度、27 年度は姫路十字会からの大口預託あり

### 3. 当事者を支援する活動

継続実施している事業について、その活動効果を点検し、見えてくる課題を分析したうえで、改善を図るという動きが出始めています。

また浮かび上がったニーズに対し、多くの住民に関わるスタイルの事業を試行した結果、たいへん効果的でした。

#### (1) 福祉給食サービス事業〔※共同募金配分事業（一部）〕

安否確認を目的として、概ね 70 歳以上の独居世帯等を対象に 1 食 200 円でお弁当を配食。毎週火曜日は神崎エリア、毎週水曜日は大河内エリア。今年も食中毒予防対策として、夏期〔6 月～9 月〕の間は、業者（神崎フード、柚香）へ調理委託しました。

本年度は事業課題の見直しを図るため、関係者が参画した福祉給食サービス事業検討会を 2 回開催したり、利用者や関係ボランティア等に対するアンケートを実施し、対象枠の細分化と提供時間の変更を決めました。

年度	配食総数	登録調理ボランティア	配食ボランティア
25 年度	5,681 食	35 グループ	個人 45 名
26 年度	5,632 食	32 グループ	個人 42 名と 1 グループ
27 年度	5,724 食	28 グループ	個人 44 名と 1 グループ

#### (2) まちの子育てひろば活動支援

申請のあった 7 団体に対し 30,000 円を上限に、総額 192,926 円の助成を行いました。

#### (3) たまゆらの会（介護者の会）事務局

＊会員数 14 名

＊主な活動 介護研修や意見交換会、レクリエーション活動などを月 1 回実施

＊社協助成 70,000 円

#### (4) 赤い羽根のさんばつサービス〔※共同募金配分事業〕

寝たきりの方や、外出が難しい障がいのある方に対し、夏期と年末年始の年 2 回、3,500 円を上限に散髪経費を助成しました。夏期〔7/1～8/30〕利用実績は 22 件 56,160 円、年末

年始〔12/1～1/3〕利用実績は26件68,000円でやや増加傾向にあります。

#### （５）老人憩いの日設定事業

赤十字奉仕団との共催で、10月2日、町内の75歳以上のひとり暮らし高齢者76名を招待しての会食会をグリーンエコーにおいて開催しました。早口ことばや歌あそびなどのゲームに、会場はおおいに盛り上がりました。

#### （６）歳末たすけあい募金配分活動

神戸町共同募金会を通じて、協力いただいた歳末募金を、社協配分金として受け入れ、それを次の活動に充当しました。

- ① 在宅で介護が相当必要な方（80人）へ見舞品を配布
- ② 就学援助受給児童、生徒（75人）に生活支援金を配布
- ③ 生活困窮世帯（9世帯19人）に生活支援金を配布
- ④ 町内の保育園（2か所）へ楽器等の購入を助成
- ⑤ ひとり暮らし高齢者等（16人）への年末大掃除の代行サービスを提供
- ⑥ 外出が困難な方への一日旅行（神戸港遊覧）の開催〔11月11日〕
- ⑦ 幼児、児童のクリスマス“なかよしお楽しみ会”を共催実施〔12月12日〕
- ⑧ 共励会の新春親子レクリエーション活動〔1月11日〕への助成

#### （７）一人親中学３年生“ありがとうの食卓”〔※共同募金配分事業〕

子どもの健やかな成長を喜び、親への感謝の気持ちを伝え、家族の絆を深める機会として、卒業時期、一人親家庭の中学３年生に6,000円分の食事券を贈ることとし、13世帯が利用されました。

#### （８）子育て世代支援事業（おゆずりプラザ）

町内から使用せず眠っている子育て用品を譲り受け、それを子育て中の世帯に譲り渡す機会として、1月24日から4日間、おゆずりプラザを開催しました。延べ67家族もの来場があり、予想以上の反響でした。物品は無料としたが、会場に設置した募金箱には13,075円の預託がありました。

## 4. 住民安心サービスの提供

外出に大きな負担のある方が安心して移動できるためのサービスを、積極的に実施しており、利用者から高い評価を得ています。

住民が抱える様々な悩みを解決するための相談所開設については利用低調が続いており、運営の見直しを図らなければなりません。

住民からの善意の預託は社協事業に活用する一方、地域還元も実施しており、有効に活用されています。

### （１）生活福祉資金の貸付事業（※県社協からの委託事業）

他からの資金の利用が困難な低所得世帯、障害者世帯、高齢者世帯に対し、資金を貸付けることで経済的自立を図り、社会参加を促します。年間の相談件数は１件。

#### ① 福祉資金 《生活課題の解決と自立を支援するための一時的費用》

→ 新規貸付 0 件。貸付総額は 1 件 71,000 円あったが、6 月に完済した。

#### ② 教育支援資金 《高校、大学等への入学のための費用や在学中の授業料》

→ 新規貸付 0 件。貸付状況は 1 件 500,000 円。償還の開始は学校卒業後。現況を把握するため自宅訪問をおこないました。

#### ③ 総合支援資金 《失業者が就労するまでの再建のための生活費用》

→ 新規貸付 0 件。貸付状況は 7 件 4,040,000 円であったが、1 件（貸付 300,000 円）が 2 月に完済した。滞納は 5 件

### （２）福祉サービス利用援助事業《※県社協委託事業》

「財布や通帳をどこにしまいこんだのかわからない」「お金の感覚に疎くなった」など、認知症や障害のために判断能力が十分でない方の、通帳や印鑑を預かり日常の金銭管理を支援するサービス。利用者は 3 月末で 7 名。異動は新規 2 件、解約は施設入所による 1 件と町外転出による 1 件。

### （３）「心配ごと相談」と、「法律相談」〔※共同募金配分事業〕

毎月第 2 金曜日、住民の抱えるあらゆる悩みや困りごとに対し 3 名の相談員による心配ごと相談所を開設。会場は、支庁舎や大河内保健福祉センターのほか集落公民館でも開設。事前予約制で、12 回中 6 回は利用申込者がなく未開所となりました。今後の心配ごと相談運営について、28 年度中に見直し検討を図る予定。

偶数月第 4 水曜日には兵庫県弁護士会から派遣された弁護士による法律相談所を開所。相談内容は、「相続や家族、住宅、土地に関わる問題」など。

	心配ごと相談	法律相談
25 年度	10 人	27 人
26 年度	8 人	26 人
27 年度	7 人	27 人

### （４）日常生活用具貸与事業

ケガや病気などで身体機能が低下された方に、介護用ベッドや車いす、歩行器、ポータブルトイレなどを貸出ししています。なお、要介護認定者は介護保険のレンタル事業が優先されます。ベッドに限り、搬入搬出時に、手数料 1,000 円をいただいています。

	介護用ベッド	車椅子	その他の福祉用具
25 年度	29 件	43 件	13 件
26 年度	23 件	28 件	12 件
27 年度	15 件	33 件	9 件

## （５）介護用品の販売

事務所窓口で紙おむつをケース単位で受注販売を行っており、希望者へは自宅まで配達します。販売額の 5%程度が社協の自主財源となるが、利用ニーズは減少気味です。

	売上総額	前年度比較
25 年度	1,440,823 円	＋ 3.9%
26 年度	1,080,690 円	－ 25.0%
27 年度	1,076,126 円	－ 0.4%

## （６）外出困難者支援サービス事業〔※共同募金配分事業〕

車椅子やストレッチャーを要する方を対象に、スロープあるいはリフト付の福祉車両を用いて神崎総合病院等への福祉有償運送を実施しています。利用料は町内往復 500 円、近隣町往復 1,000 円、姫路、朝来往復 2,000 円。3 月に登録更新のための申請をおこない、特に事故がないことから引き続き 3 年間の登録が認可されました。

	利用者数	利用回数
25 年度	27 人	497 回
26 年度	31 人	462 回
27 年度	36 人	451 回

## （７）福祉車両の貸出し

歩行が困難な方の家族に、車いすのまま乗れる福祉車両（姫路十字会からの平成 25 年度助成）の無料貸出しを行っています。

	貸出回数
25 年度	210 回
26 年度	176 回
27 年度	246 回

## （８）お買い物送迎サービス

周辺地域に商業店舗がなく巡回バスの利便性の低い集落（新田・作畑・上小田）をモデル指定し、月 1 回、自宅から栗賀町のスーパーマーケットへの送迎を行っています。対象は運転免許を持たない高齢者等の世帯で現在、18 名が利用登録し、延べ 70 人が利用。利用者数は減少傾向にあります。

## （９）善意銀行「地域づくり助成事業」

集落において、地域福祉を高める活動や住民の安心安全となる活動で、かつ利用ニーズが高い、あるいは緊急性が認められる場合、理事会で審査したうえで、助成をおこないます。

	集落名	助成決定額	内 容
1	福本	50,000 円	消防団詰所移転に伴う会議テーブル（6 台）の購入
2	栗	50,000 円	区公民館前掲示板の設置

## 5. 福祉学習・福祉啓発の取り組み

これまで学校と連携しておこなってきた福祉啓発事業に加え、これから地域の見守り支援合い活動が重要となるため、老人クラブの協力を得て、新たに福祉啓発のための研修会を役場地域包括支援センターとの共催で実施しました。

27 年度は社協設立 10 年の節目の年であり、住民や関係者への感謝の気持ちを込めたイベントを開催しました。

### （１）ボランティア推進活動校助成事業

助成申込のあった町内すべての学校（6 校）に対し、100,000 円を上限に申請を受けました。年度終了後は、すみやかに活動報告書の提出と助成金の清算を行い、結果総額 464,182 円を助成しました。

主な活動として、学校行事に地域の高齢者を招待しての交流、募金活動、美化活動、福祉施設との交流、ベルマークやアルミ缶の収集活動など。

決定額・神崎高校	… 100,000 円	・長谷小学校	… 100,000 円
・寺前小学校	… 89,998 円	・神崎小学校	… 72,789 円
・越知谷小学校	… 70,000 円	・神河中学校	… 31,395 円

### （２）“ちょっといいこと運動”

誰もがもっている善意の気持ちを実行するきっかけとして、ちょっといいこと運動を提唱し、6 月の善意の月間時期には広く町民に対し、またボランティア活動推進校の活動メニューのひとつとして、夏休み期間中には子ども達にそれぞれ参加を呼びかけました。

運動の結果は、町民の参加が乏しかった反面、子どもの参加数は相当なものとなり、保護者からも活動に対しての評価を受けています。

なお今回、この運動の目的や、取り組んだ活動を掲載した“ちょっといいことニュース”を新たに発行して、子どもたちに配布しました。

### （３）神河中学校トライやるウィークの受け入れ

6 月 1 日～5 日までの期間中、2 名の生徒を受け入れしました。社会福祉協議会の役割や活動の説明をおこない、実際にヘルパーと利用者宅を訪問し、入浴介助や掃除、調理などを体験してもらいました。また、ボランティアさんの活動体験もおこないました。

### （４）福祉教育として学校等へ出張講師

11月2日に神崎小学校の4年生を対象にアイマスクを装着しての視覚障害の疑似体験を行いました。また11月9日には越知谷小学校5・6年生を対象に高齢者疑似体験を行い、それぞれ障がい者に対する理解を深めました。

### （５）小地域見守り研修

地域の見守り、ささえ合いを推進するため、まずは町内老人クラブ会長と女性部の方々を対象に「小地域見守り研修会」を8月24日、31日の2日間、役場地域包括支援センターとの共催で開催しました。県社協地域福祉部職員が講師を務め、地域の見守りの現状や孤立死の事例を通して、これからの取り組み方についての活発な意見交換が行われました。

隣保単位での集い場の開設も徐々に増えてきているなか、研修会でも独自に作成したパンフレットを配布し、見守り活動を推進しています。

### （６）法人合併10周年「社協感謝の集い」

合併10周年を機に、これまで社協活動にご支援いただいた方々へ感謝の気持ちを伝え、また住民の皆様との交流を図る機会として、6月28日（日）、神崎支庁舎において、「社協感謝の集い」を開催しました。

永年ボランティア活動をされている個人や団体への感謝状贈呈や、神崎高校のボランティア活動発表、地域の福祉力向上についての講演会などをおこないました。

また屋外ではたくさんの出店者によるフリーマーケットで賑わい、体の不自由な方の送迎もおこなったりしたことで、幅広いたくさんの町民の皆様に来ていただくことができました。

## 6. ボランティア活動の推進

地域で活躍されているボランティアさんに対しての活動助成をはじめ、活動課題を反映させた内容の研修会の開催に取り組みました。

また地域のボランティア活動にも職員が積極的に出向き、ボランティアさんとの意見交換を図りました。

今後ボランティア数が減少していくことが懸念されるなか、若者層や男性層のボランティアの掘り起こし、あるいは趣味、特技を活かしたボランティア活動がカギとなります。

### （１）ボランティア登録状況

ボランティア活動される方は最初に社協ボランティアセンターへ登録してもらうと、ボランティア活動保険に加入され、活動支援助成の申込み対象となります。

	27年度	26年度	25年度
グループボランティア	106団体	114団体	109団体

5月14日のボランティア連絡会には、42団体が出席するなか、まずはボランティア活動

保険の説明をおこないました。また講師を招いて「地域≡ボランティア？あなただからできるご近所のお世話術」と題した講演会を開き、地域住民の中でのボランティアの立ち振る舞いの仕方や、うまく活動ができないことの方が多くて当たり前など、頑張り過ぎずに活動することの大切さも学びました。

## **（２）ボランティア活動支援助成〔※共同募金配分事業（一部）〕**

社協ボランティアセンターに登録されたボランティアグループに対し、活動助成を行いました。これまで 64 グループ（1 グループ上限 30,000 円）と、個人ボランティア 2 名（1 人上限 10,000 円）に対し、総額 1,854,500 円を助成しています。

年度終了後は、すみやかに活動報告書の提出と助成金の清算を求めます。

## **（３）ミニディボランティアへの職員参加**

職員（ボランティアコーディネーター）が地域のミニディ活動へ出向き、レクリエーションゲームをおこない参加者との交流を図りました。また運営ボランティアさんから活動課題の聞き取りもしました。

- \*4 月 10 日 寺前ミニディ（1 名）
- \*6 月 1 日 大山ミニディ（1 名トライやる生徒 2 名）
- \*6 月 10 日 福本ミニディ（1 名）
- \*8 月 10 日 上岩ミニディ（1 名）
- \*2 月 17 日 大河ミニディ（1 名）
- \*3 月 18 日 小田原ミニディ（1 名）
- \*3 月 25 日 日和ミニディ（1 名）

## **（４）若い世代にもできるボランティア講座の実施**

若い方が興味をもって取り組めるボランティア活動として、アロマトリートメント養成講座の開催を試みました。男女 12 名が受講され、修了後はあやめ苑を中心としたアロマボランティアとして積極的に活動されています。

## **（５）「震災 1. 17 のつどい」ろうそくの作製**

子どもや若者がボランティア体験できる場として、11 月 8 日に“阪神淡路大震災 1. 17 のつどい”で使用するろうそく作りを呼びかけたところ 24 名が参加し、102 個を作製した。

また竹筒は、年末に各集落老人クラブに協力いただき、前年を上回る 600 本もの提供を受け、1 月上旬に神戸のイベント実行委員会へ引き渡した。

## **（６）「震災 1. 17 のつどい」参加**

ろうそく作りや竹筒の提供をいただいた方々に呼びかけ、1 月 17 日の“震災 1. 17 のつどい”を 15 名で見学しました。また、人と未来防災センターも見学し、大震災の映像や展示物等を見て改めて震災の怖さを感じるとともに、防災・減災の意識の大切さを学びました。

## **（７）ボランティア研修**

町内でミニディ活動をされているボランティアさんを対象に、抱える活動課題からテーマを設け、年4回シリーズで研修会を組みました。他のボランティアさんとの交流も生まれ、「習った手芸を早速作ってみました」との感想が寄せられました。

	開催日	内 容	参加者数
①	6月11日	他のミニディは何をしょってんやろう？ ～意見交換会～	37人
②	9月18日	高齢者でも楽しく気軽に組みめる 簡単な手芸講座①	45人
③	11月12日	古田先生のミニディでも役立つ体操講座	31人
④	2月26日	高齢者でも楽しく気軽に組みめる 簡単な手芸講座②	36人

## （８）善意の物品預託

住民の方々から預託いただいた善意の物品は、社協広報紙で紹介しながら適切に払い出しを行っています。

内 容	預託件数	数量	払い出し先
介護用品	8件	多数	町内の希望者へ。一部保留中
毛布類・シーツ類	3件	7枚	町内の希望者へ。一部は保留中
古切手・ベルマーク・ 書き損じ葉書・テレカ	94件	多数	ベルマークは中学校。その他は「誕生日ありがとう運動」本部へ
雑巾	2件	377枚	町内各学校へ
簡易ベッド	1件	1台	譲受希望はなく処分
図書・クオカード等	1件	10枚	保留中
食料品	2件	5点	生活困窮者へ。一部保留
ポータブルトイレ	2件	2台	町内の希望者へ
シルバーカー	1件	2台	町内の希望者へ
ガスコンロ	1件	1台	町内の希望者へ

## 7. 居宅介護サービスの提供

介護サービス事業について、特に登録介護職員が慢性的な人員不足に陥っており、人員の確保に取り組んでいますが成果が出ていません。そのためにサービス供給量より需要量が上回ってしまうことがあります。

職員の向上心は高く、研修へ積極的に参加し、スキルアップに努めています。

11月には、老朽化したヘルパー活動車両（1台）を買い替えするにあたり、公益財団法人姫路十字会から全額助成していただきました。

## ☆ 居宅介護サービス〔5 事業総計〕

	報酬総額	前年度比較
25 年度	62,117,016 円	＋ 7.1%
26 年度	63,950,573 円	＋ 3.0%
27 年度	63,230,222 円	－ 1.1%

### ① 訪問介護事業〔常勤ヘルパー4 名 登録ヘルパー7 名〕

	事業報酬	前年度比較
25 年度	20,038,866 円	＋ 8.4%
26 年度	21,069,063 円	＋ 5.1%
27 年度	19,901,692 円	－ 5.5%

### ② 訪問入浴介護事業〔常勤介護員 1 名 登録介護員 2 名 登録看護員 4 名 登録運転員 2 名〕

	事業報酬	前年度比較
25 年度	12,180,760 円	－ 3.6%
26 年度	11,644,500 円	－ 4.4%
27 年度	11,539,490 円	－ 0.9%

### ③ 居宅介護支援事業〔常勤ケアマネジャー4 名〕

	事業報酬	前年度比較
25 年度	23,246,100 円	＋17.1%
26 年度	24,406,260 円	＋ 5.0%
27 年度	24,178,570 円	－ 0.9%

### ④ 障害者自立支援 居宅介護（ホームヘルプサービス）・同行援護・移動支援

	事業報酬	前年度比較
25 年度	6,651,290 円	－ 5.4%
26 年度	6,001,760 円	－ 9.8%
27 年度	5,968,340 円	－ 0.6%

### ⑤ 障害者自立支援 相談支援事業〔常勤ケアマネジャー1 名が兼務〕

	事業報酬	前年度比較
26 年度	828,990 円	
27 年度	1,642,130 円	＋98.0%

## ○研修講師派遣

兵庫県ケアマネジャー更新研修へ、県社会福祉研修所にあらかじめ登録している本会ケアマネジャー1 名が2 日間、講師として指導にあたりました。

また県社協で開催の県内社協新任職員研修へ本会職員1 名が先輩職員として招かれ、自身の体験談や社協職員としての心構えなどを伝えました。